

豊後大野市立 千歳中学校

学力向上プランの概要

1 生徒の課題

各学年とも、アンケートでは85%以上の生徒が「わかろう」「がんばろう」という気持ちで取り組んでおり、「授業に対する満足度が高い生徒90%」の達成指標にほぼ迫っている。苦手教科への継続的かつ効果的な取り組みや、家庭学習への取り組みが十分でない数名に対していねいに指導・助言していくことが必要。

2 指導の状況

① 組織的な授業改善の取組状況

授業のUD化をより進めていくために、UDに関わるベーシックなスキルを身につける研修を重ねている。また、「発問+作業指示」と授業冒頭の「オープニングチャレンジ」に全教員で取り組み、確かな学力の定着を目指している。

② その他の学力向上に向けた指導の実施状況

教員全員で、朝の20分間のチャレンジタイムの指導にあたっている。

3 今年度の授業改善の具体的な取組

テーマ	全ての生徒が確かな学びを身につける授業	
重点	「新大分スタンダード」を基本にした、UDのよさを取り入れたわかる授業づくりと環境づくり	
	取組①	取組②
取組内容	わかる授業のために【発問+作業指示】を取り入れた教科・道徳の授業について取り組む。	授業冒頭の3分程度を、基礎的学力定着のために、視覚や聴覚に訴えながら行うスキルタイム「オープニングチャレンジ」として取り組む。テストに役立つ内容を取り入れ、学んだことが確実に身についたという達成感を味わわせる。
取組指標	授業では、【発問+作業指示】：「ノートに書かせる」「となりの生徒と相談させる」など、毎時間取り入れる。	毎時間、授業冒頭の3分程度行い、定期テストごとに効果を検証し改善を図る。検証結果については、全職員が共有し今後の指導に役立てる。

効果のある取組事例

1 互見授業とその交流

ペアによる互見授業を学期に1度ずつ、また学校独自の指導案の作成とそれに基づいた授業観察を行う。

2 全教員での朝の「チャレンジタイム」指導

始業前に20分間行い、生徒の支援にあたる。

3 読書活動の充実

水曜日の午後、全校で20分間の読書時間を設定する。

4 生徒会の取り組みとの連携

生徒会学習部の取組「ベストMノーター」の選出を行い、家庭学習の充実を支援する。

5 家庭や地域住民との連携・協力

家庭と連携し、メディア使用のチェックや家庭学習時間の把握等にあたる。

互見授業の指導案（例として研究主任が作成、一学期の授業研を行い他教職員と共有）

2年 1組	教科 国 語	指導者 足立 友子	UD授業10の視点
題目	「職場体験で社会生活に必要なことばのチカラをつけよう／敬語のまとめ～敬語を正しく使おう」		※授業する上で、意識したい視点、注目して見て欲しい視点に○をする。
ねらい	○ <u>A学習内容敬語の学習において、B学習活動職場体験や日常生活の場面における敬語の使い方を見直すことで、C育成する資質能力場面や状況に応じて適切に敬語が使えるようにする。</u> 新大分スタンダードのすすめ【授業づくりのポイント4】参照		①一時に一事の指示をする。 ()
本時の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中での基本的な敬語が使えている。 敬語の使い方の間違いに気づき、適切な敬語に直すことができる。新大分スタンダードのすすめ【授業づくりのポイント2】参照 		②端的な説明をする。() ③発問・指示は全員にする。 ()
学習活動	<p>※オープニングチャレンジ (3分) 必ず記入 「□に漢字一字を入れて、敬語にしよう。」</p> <p>1. めあて(課題)と授業の流れを確認する。(2分)</p> <p>2. 学校生活A場面(10分) (発問)プリント①で、間違っただ敬語の使い方はありませんか? (指示1)プリント①に正しい使い方を書き込みなさい。</p> <p>3. 学校生活B場面 (15分) (発問)これからする劇で敬語の間違ひがあります。どこが間違っていたでしょうか。 (指示1)気づいたことをプリント①の下メモ欄に書きなさい。 (指示2)気づいたことを発表しなさい。 (指示3)プリント②の傍線横に書き込みなさい。</p> <p>4. 職場体験の場面 (15分) (発問)劇を聞きながら、どんな敬語を使えばよいのか考えなさい。 (指示1)プリント③の空欄に敬語を入れなさい。 (指示2)ペアになって確認し、プリントを完成させなさい。 (指示3)もう一度劇をしますから確認しなさい。 (指示4)ペアでプリントを読みましよう。</p> <p>6. 振り返り(5分) (指示1)今日学んだことを職場体験にどう生かすか、プリント④に書きなさい。 (指示2)今日使ったプリントをノートに貼りましよう。</p>		④一目でわかるように資料・教材を工夫し、提示する。 (○) ⑤心地よいリズムとテンポで授業する。() ⑥空白の時間をつくらない。 (○) ⑦指導の途中で何度か達成状況を確認する。 () ⑧すべての子どもをほめ、励ます。() ⑨声に出す、読む、書く、立つ、すわるなどの作業・活動を授業に入れる。 (○) ⑩適切な学習環境にする。 ()
支援を要する子どもへの手立て	<p>集中力が続かない生徒が数名→作業指示を変える。</p> <p>作業への取り組みが遅い生徒、作業の内容を理解しにくい数名→手引きの工夫と書き込みの指示を明確に行う。</p>		①～⑩以外で気をつけて見て欲しいことを記入。 ※その他の工夫点 ○授業の流れにそったワークシート (○) ○指示の変化